

おはようございます。楽しい夏休みもあっという間に終わってしまいましたね。  
1学期終業式では、身近にたくさんの幸せを見つけて、充実した夏休みを過ごしてくださいというお話をしましたが、どうでしたか。私は、何よりも夏休み中に大きな事故もなく、今日皆さんがこの場に集まったことを幸せに思います。

さて、夏休みというと全国高等学校総合文化祭や全国高等学校総合体育大会など高校生の文化・スポーツの祭典が全国各地で開催されます。本校からも川崎で開催された全日本高校ボウリング選手権大会に1年の吉原君が出場し、見事に3位入賞しました。また、書道部は国際美術展で団体奨励賞をいただきましたが、これも全国3位に相当します。私は体操競技が専門なので、鹿児島で開催されたインターハイに行ってきました。しかし、高校スポーツというと最も注目されるのは、やはり高校野球ですね。毎年甲子園で高校球児の熱い戦いが繰り広げられ、全ての試合がテレビで放映されます。こんな競技は野球だけです。今年は履正社高校が星稜高校の奥川投手に打ち勝ち、大阪勢が2連覇を成し遂げたことは、皆さんの記憶に新しいと思います。私も、テレビでいくつかの試合を観戦しましたが、どの試合からも多くの感動と勇気をもらいました。私はどちらかと言えば、勝ったチームより負けたチームの選手の姿に、感動することが多いです。それとともに、「この選手たちはこの敗戦をバネに大きく成長するだろうな。」という期待もこみ上げてきます。

「負けた経験がその後の人生をつくる。」これは、戦国時代に先輩の武将が後輩を教育するために言い伝えた武編咄の一つです。戦国時代の武将といえば、皆さんは真っ先に徳川家康を頭に浮かべる人が多いと思います。その徳川家康でさえ、三方ヶ原の戦いで武田信玄に敗れています。この戦いで多くの家臣を失った家康は、こ

れまで上から見下ろしていた家臣を大切にするようになり、そして天下統一を果たしたと言われていました。

このように「負ける」ことは、その時は苦しかったり、悲しかったりしますが、人を大きく成長させる機会となるというのが、昔からの言い伝えです。

皆さんも「負けること」それから「失敗すること」もあると思いますが、若いうちはそれを恐れず挑戦することが大切だと思います。

さて、話を高校野球に戻しますが、試合では投打に活躍する選手ばかりが目立ちます。しかし、どのチームにもそれを支える裏方の高校生の存在があり、その生徒の力がチーム力を上げている学校も多いと考えられます。

私が最も印象に残っているのは、12年前の89回大会では、大分県でノーシードだった楊志館高校が県大会から19戦無敗で甲子園ベスト8進出の快挙を成し遂げ、「伝説の夏」と称されたことです。その裏には青春のすべてをチームに注ぎ、他の誰よりも熱くチームを支え続けた女子マネージャーの「あっこ」こと大崎耀子さんの存在がありました。この年、高校2年生だった大崎さんは、甲子園の前に進行性の上咽頭がん侵されていることが発覚し、残念ながら治療のために甲子園の土を踏むことはできませんでした。3年生となった翌年の夏、大崎さんは自らの判断で治療を中断してグラウンドに戻り、チームを全力でサポートします。しかし、この年楊志館高校は甲子園出場を果たせませんでした。そして、その年の10月、大崎さんは18歳の誕生日を前に短い生涯を閉じます。正に、高校野球に捧げた人生だったと言えます。

このように表舞台で活躍する者と裏方でそれを支えてくれる者が、それぞれの役

割をしっかりと果たし、お互いに尊重して協力し合うからこそチーム力は底上げされるのだと思います。

さて、2学期は文化祭、体育祭、2年生は修学旅行など大きな行事が盛り沢山の学期です。これらの行事を成功させるには、表舞台で活躍する人だけでなく、それを陰で支える人の存在が必要です。その両者がお互いをリスペクトし、協力していくことで最高のパフォーマンスが発揮できると思います。仲間と心をつなげて共通の目標に向かい、これらの行事を盛り上げてください。

皆さんがそれぞれの行事で仲間と輝いている姿、その中で日々成長している姿を見ることを楽しみにして、2学期始業の挨拶とします。